大阪市、試験焼却まであと2ヶ月！緊急講演決定!!

災害廃棄物の広域処理により、大阪市は 11 月に試験焼却を
行うとしています。
「痛み分け」と言われますが、子どもたちにとっての「痛み」とは？
赤ちゃんやお年寄りにとっての「痛み」とは？「安心・安全」は本当か？
被災地が本当に望んでいる復興支援とは？
阪神淡路大震災で今、表面化し始めたアスベスト被害との共通点は？
など、日ごろ疑問に思っていることを熊本一規先生に
聞いてみましょう。

～どう処理する、災害廃棄物～
「がれき処理、除染はこれでいいのか」
熊本一規先生　講演会

（明治学院大学教授・東京大学工学部都市工学科卒・同大学院博士課程終了（工学博士））

8月２０日（月）

昼講演　午後２時～４時

夜講演　午後６時半～８時半

場所：大阪市立すまい情報センター

●所在地 大阪市北区天神橋６丁目４－２０
TEL. 06-6242-1160　FAX. 06-6354-8601
・地下鉄「天神橋筋六丁目」駅下車　３号出口より連絡
・ＪＲ環状線「天満」駅から北へ約 650m
●駐車場あり（有料）
・１時間４００円　（以後３０分毎２００円）

実費：１０００円（資料代含む）

主催：本当の被災地支援を考える会　080-8837-5425　kawanishikodomo@gmail.com

熊本一規先生
初来阪講演！

～被災地復興のために私たちは何をどうすべきなのか、その方策について考える～

「東北がんばれ！それってただ言葉だけだったのか？東北のがれきが処理されないのは他府県が搬入を拒否しているからだ」「放射能が怖いという無知から来る身勝手な言い分。自分だけ良ければいいのか」　震災がれきの広域処理で、反対する市民に投げつけられる政府・マスコミの非難のことば・・・。はたして本当にそうなのか？

IAEA（国際原子力機関）の安全基準に照らしても80倍も甘く基準緩和し、放射性廃棄物として厳格に保管・隔離されなければならない物を日本全国にばらまく広域処理は、国民の健康に脅威をもたらす。

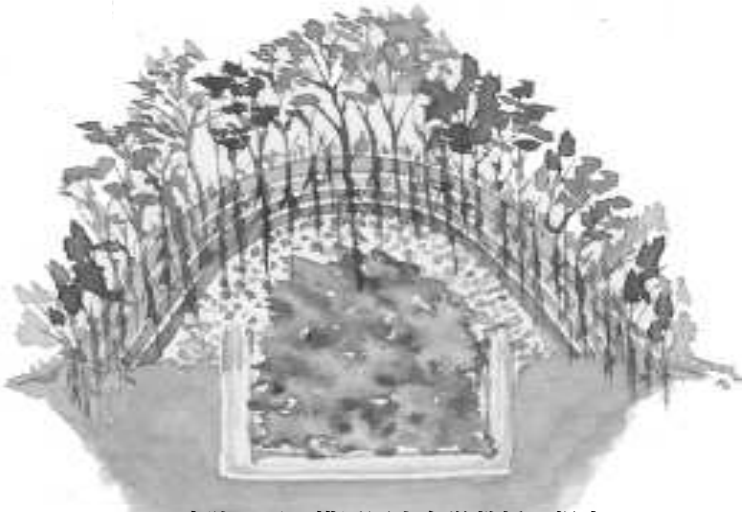
そして、避難区域への住民の帰還推進で進められる除染事業。しかし放射性物質は除染によって減少することはない。がれき利権と除染利権に群がるゼネコンや原発関連業者。いま必要なのは放射性物質の隔離と住民の避難なのだ。本書は、問題点をていねいに解き明かす。

～「BOOKデータベースより」～

「被災地でアスベスト飛散問題･･･中皮腫の発症リスクが 12.5 倍･･･環境省なども問題を放置」

「市の発表によれば･･･住宅地におけるアスベスト濃度の全国平均の 4500 倍に達する異常値」
～週刊ダイヤモンド　2012 年 5 月 28 日より～

環境省の排ガス測定の方法について
「この測り方ならどこでも検出限界以下ですよ」
～名古屋大学名誉教授　古川路明氏の発言　日経ＢＰより～



宮脇　昭　横浜国大名誉教授　提案
「いのちを守る森の防潮堤」プロジェクトより

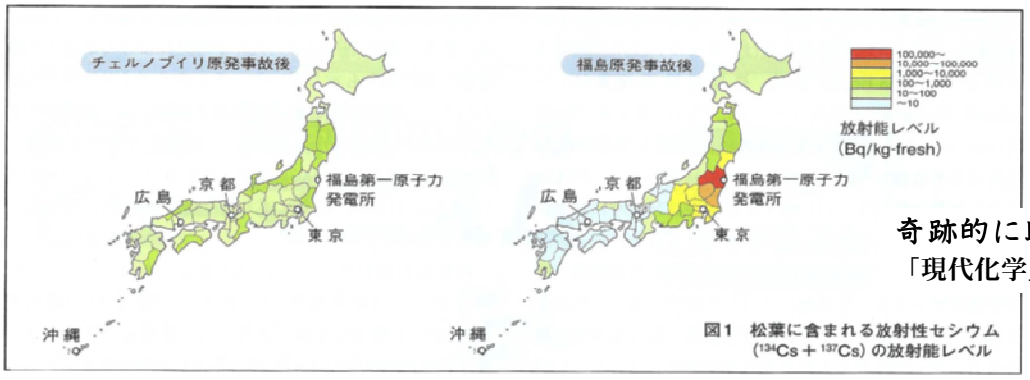


図1　松葉に含まれる放射性セシウム（$^{134}Cs + ^{137}Cs$）の放射能レベル

奇跡的に助かった西日本
「現代化学」2012 年 12 月号より

「(がれき焼却で)鼻血が出ても因果関係は証明できない」
～橋下大阪市長　此花区住民説明会での発言より～

「細野氏が測定パフォーマンスで使用した測定機は、正確な判定ができない代物」
～フライデー2012 年 5 月 25 日号より～